

一人ひとりが持てる能力を発揮し働きがいをもつために。 企業と従業員が成長できる 「職業能力評価基準」がスタート！

日時：平成27年11月12日(木)
14:30～16:30
会場：東京屋外広告ディスプレイ
健康保険組合 会議室

講師：高久 訓一 氏
中央職業能力開発協会
能力開発支援部 評価制度開発課長



2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてディスプレイ業界の成長が大きく伸びることが見込まれています。厚生労働省は、今後、人材育成や能力の仕組みづくりが重要となることから、この『職業能力評価基準』を策定。一人ひとりが能力を発揮し働きがいをもつためにも、必要な職業能力を業界共通として明確化し、正当性・納得性の高い能力評価制度を整備することで、「一人ひとりの能力が適正に評価され、採用・処遇がされる」ことを業界としても目指しています。

会場は満席などところからも、業界横断で人材育成を考える動きがはじまっていることに対する関心の高さがうかがえ、実際に受講をしてみると評価基準の見直しや策定予定の人事担当者だけでなく、キャリアを客観的に見直したい社員にも使いやすい内容になっていると感じました。

■どのように使えるのか？

講師の高久先生によると、この基準は業界汎用版のため、各社がカスタマイズすることで自社に見合った人材育成カリキュラム、社員のキャリア形成や能力開発のための指針、採用判断基準などに活用が可能とのことでした。

詳しくみると、『職業能力評価基準』では、「プロジェクト統括・管理」「調査・企画管理」「意匠・設計管理」「製作・施工管理」「運営管理」の5つの職種について、それぞれレベル1（スタッフクラス）からレベル4（プロデューサー、シニア・ディレクタークラス）までの評価基準が定義されています。全職種で共通する能力とともに、各職種の仕事内容と各

レベルの具体的な職務行動例・知識がまとめられ、働くうえで求められる職業能力が詳しく「見える化」されています。

■評価の納得性を生むコミュニケーションツール

この基準をもとにつくられたのが、企業にとってはキャリアの方向性をしめし社員は歩み方を確認できるキャリア形成の指針『キャリアマップ』と、現在の能力レベルを定期的に把握・評価できる『職業能力評価シート』という大きく2つのツールです。このツールには、『評価者同士の目線合わせ会議の開催』や『OJTシート』など、上司と被評価者のコミュニケーションを活性化する運用の仕組みも備わっています。先生のお話では、『OJTシート』の「スキルレベルチェックグラフ」は、評価結果が一目でわかるので、スキルアップの課題特定や、今後の具体的な成長目標の設定がしやすく、話し合いがスムーズに進められ、個人の強み・弱みに応じた効果的な育成ができるとのこと。実際に、上司と被評価者の間には評価のズレがあることも多いとのことでした。

被評価者である社員が評価の納得性を持つためには、評価内容が見える化し、日々の目標への取り組みが将来のキャリア形成にどのようにつながっていくかを、上司と客観的に話し合う機会を積極的に作ること。それが社員の能力やモチベーションアップだけでなく、企業の成長にもつながると先生ははめくられていました。

広報委員 岡村有希子/株乃村工藝社

◆「ディスプレイ業」に関する職業能力評価基準の入手先について

- 職業能力評価基準はホームページから全て無料でダウンロード可能
http://www.hyouka.javada.or.jp/user/dn_standards_a10464.html
- キャリアマップ、職業能力評価シートもホームページから全て無料でダウンロード可能
<http://www.hyouka.javada.or.jp/user/cmmap.html>
- ※「ディスプレイ業」における職業能力評価基準は、一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会協力のもと作成。



図1：研修の様子

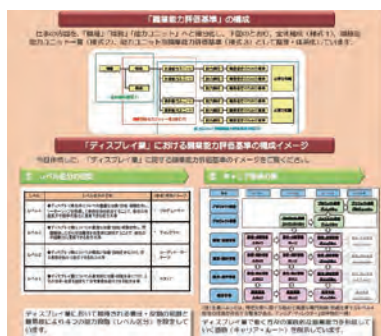


図2：中央職業能力開発協会「業種別リーフレット」画面キャプチャ



図3：同協会「職業能力評価シートを活用したOJTコミュニケーションシート」画面キャプチャ